



Tottori Pref.

# 鳥インフルエンザ 防疫対策連絡会議

平成23年11月11日(金)13:00～

鳥インフルエンザ防疫対策連絡会議

# 次 第

1 . あいさつ

2 . 経緯

3 現在の対応

4 . 今後の対応

# 経緯(コハクチョウ)

11月 7日(月)

島根県美保関町の七類港の船揚場で、コハクチョウの死体を発見・回収

島根県松江家畜保健衛生所で簡易検査の結果、インフルエンザウイルスA型の感染は、陰性

国立環境研究所に試料(スワブ)送付

コハクチョウ: リスク種1、感受性の高い種に該当

11月 10日(木)

国立環境研究所での遺伝子検査の結果、インフルエンザウイルスA型について陽性と判明の旨、島根県から連絡

検体は確定検査のため鳥取大学に移送

検査結果判明まで数日から1週間程度かかる見込み

環境省が発生地から10km圏内を野鳥監視重点区域に指定

# 11月7日島根県松江市美保関町で発見された コハクチョウに係る区域



# 野鳥におけるサーベイランス(調査)の概要

表 I-1 発生状況に応じた対応レベルの概要

発生状況	対象地	発生地周辺（発生地から半径10km以内を基本）
通常時	全国	—
国内発生時（単発時）	<u>対応レベル2</u>	<b>野鳥監視重点区域</b> に指定
国内複数箇所発生時	<u>対応レベル3</u>	
近隣国発生時等	<u>対応レベル2 または 3</u>	必要に応じて <b>野鳥監視重点区域</b> を指定

\* ここでの「発生」とは糞便における高病原性鳥インフルエンザウイルスの分離も含む。

表 I-2 対応レベルの実施内容

対応レベル	鳥類生息状況等調査	ウイルス保有状況の調査				糞便採取調査
		死亡野鳥等調査				
		リスク種1	リスク種2	リスク種3	その他の種	
対応レベル1	情報収集 監視	1羽以上	3羽以上	10羽以上	10羽以上	10月から4月にかけて定期的に糞便を採取
対応レベル2	監視強化	1羽以上	1羽以上	10羽以上	10羽以上	
対応レベル3	監視強化	1羽以上	1羽以上	5羽以上	10羽以上	
野鳥監視重点区域	監視強化 発生地対応	1羽以上	1羽以上	3羽以上	3羽以上	

\* 死亡野鳥等調査は、同一場所（見渡せる範囲程度を目安とする）で3日間（複数羽の場合は大量死あるいは連続して死亡が確認された時点から3日間以内）の合計羽数が表の数以上の死亡個体等（衰弱個体を含む）が発見された場合を基本としてウイルス保有状況の調査を実施する。原因が他の要因であることが明瞭なものは除く。

\* 見渡せる範囲程度とはあくまで目安であり、環境によって大きく異なり、具体的数値を示すのは困難であるので、現場の状況に即して判断して差し支えない。

# 鳥インフルエンザに対し、感染リスクの高い種

表I-3 リスク種

( 8 目10 科)

リスク種1 ( 18 種)		
カモ目カモ科 シジュウカラガン マガン ヒシクイ コブハクチョウ オオハクチョウ <b>コハクチョウ</b> オシドリ キンクロハジロ	タカ目タカ科 オジロワシ オオワシ オオタカ ハイタカ ノスリ サシバ クマタカ チュウヒ タカ目ハヤブサ科 ハヤブサ チョウゲンボウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆主に早期発見を目的とする。</li> <li>◆高病原性鳥インフルエンザウイルス (H5N1 亜型) に感受性が高く、死亡野鳥等調査で検出しやすいと考えられる種。</li> <li>◆平成22～23年の発生において感染確認個体数が多かったオオハクチョウ、キンクロハジロ、オシドリ、ハヤブサを基本に、ハクチョウ類、ガン類、タカ類の主な種を含める。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度の神経症状 *が観察された水鳥類</li> </ul>		
リスク種2 ( 16 種)		
カイツブリ目カイツブリ科 カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カモ目カモ科 マガモ オナガガモ ホシハジロ スズガモ	ツル目ツル科 タンチョウ ナベヅル マナヅル ツル目クイナ科 バン オオバン チドリ目カモメ科 ユリカモメ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆さらに発見の可能性を高めることを目的とする。</li> <li>◆過去に感染死亡例のある種をより幅広く含める。</li> </ul>
		フクロウ目フクロウ科 ワシミミズク コノハズク フクロウ
リスク種3		
ペリカン目ウ科 カワウ  コウノトリ目サギ科 ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ等全種 カモ目カモ科 カルガモ、コガモ、ヒドリガモ等 ( リスク種1、2 以外全種)	チドリ目カモメ科 セグロカモメ、ウミネコ等 ( リスク種1、2 以外全種) タカ目 トビ等 ( リスク種1、2 以外全種) フクロウ目 コミズズク等 ( リスク種1、2 以外全種)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆感染の広がりを把握することを目的とする。</li> <li>◆水辺で生息する鳥類としてカワウやサギ類、リスク種1 あるいは2 に含まれないカモ類、カモメ類、タカ目、フクロウ目の種を対象とした。</li> </ul>
その他の種		
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆上記以外の鳥種すべて。</li> <li>◆猛 禽類以外の陸鳥類については、ハシブトガラス以外は国内では感染例が知られておらず、海外でも感染例は多くないことからその他の種とする。</li> <li>◆多 数の死亡が見られた場合や平成16 年のハシブトガラスのように感染死体を食べた等、感染が疑われる状況があった場合に検査することとする。</li> </ul>		

## 現在の対応(野鳥監視の状況)

11月11日(金) 境水道及び港湾付近で監視活動を実施

# 現在の対応(調査機材の調達状況)

・死亡野鳥等調査に必要な関連資材については、総合事務所に配備済み。

表 III-3 死亡野鳥等調査に必要な機材等

機材	備考
厚手ビニール袋(厚さ 0.1mm 以上のものが望ましい)	死亡個体回収用、三重程度に重ねて使用するの で数が必要。
ゴムまたはビニール手袋	死亡個体の取り扱い用。
消毒用アルコール(70%エタノール)、その他消毒薬	死亡個体回収袋の消毒用、手指・靴・物品の消毒用。参考 4 (p.49) 参照。
消石灰	土壌消毒用。
ラテックス手袋	試料採取用。下記参考 1 参照。
マスク	試料採取用。下記参考 1 参照。
滅菌綿棒	大きさの異なるものを2種類程度用意しておく。
サンプル管(滅菌試験管、スクルーキャップ、10~15ml程度)	上記綿棒が入る太さであれば良い。綿棒の柄は切って入れる。
滅菌リン酸緩衝生理食塩水	試料を湿潤な状態に保つために使用。p.50 参照。
簡易検査キット	IV.3.2 (p.75) 参照。有効期限に注意し、買いだめしない。
国連規格輸送用容器	下記参考 2 (p.45) 参照。
密閉容器等	死亡個体やその他の廃棄物処理にあると良い。



平成23年11月10日(木)

立入検査(西部家保:家畜防疫員)  
半径10km内に入る養鶏場:異常なし

電話での確認  
半径10km外の米子市1農場:異状なし

平成23年11月11日(金)

県下84養鶏場 電話確認調査

84 / 84農場で異状ないことを確認済  
(1農場については引き続き確認中)

# 県内サーベイランスの状況

H23.8 ~ 陰性確認済

毎月9農場(定点モニタリング)

ウイルス分離・抗体検査

指定農場25農場(強化モニタリング)

抗体検査

備蓄資材一覧		(2万羽規模の発生を想定した備蓄量)
品名	規格	発生時に発注等が必要なその他の物品等
		(リース等)
防護服	タイベックスソフトウェア 型	・殺処分用炭酸ガスボンベ
マスク	N95排気弁付 20枚/箱	・コンテナハウス、仮設トイレ
ゴム手袋(イナナー)		・発電機、屋外照明器具
ゴム手袋(アウター)		・テント、いす、テーブル
ゴーグル	2237RJ-グー	・コーン、ボール、誘導棒
長靴		
軍手	フリーサイズ	(購入等)
雨合羽上下セット		・竹ぼうき、バケツ、ベール缶等
消石灰	20kg	・灯油、ガソリン、ポリタンク、燃料缶等
鶏焼却用ベール缶	サンベールK#50	・動員者用飲料水、食料
フレコンバッグ		・筆記用具、看板、紙コップ等
ブルーシート	10m x 10m	
鶏焼却用段ボール	455 x 315 x 280	
荷造りロープ	FR-2130 (300m)	
荷崩れ防止フィルム	0.5m x 300m	
ガムテープ		
カッターナイフ		
鶏焼却用ポリ袋	90リットル半透明10枚入り	
保定ロープ	エスパーロープ 10mm (200m)	
動力噴霧器	タンク含む	
車両消毒マット		
ポンペ用ホーン		

# 初動分備蓄確保

# 今後の対応(案)

- 1 野鳥について
  - ・監視重点区域に応じた調査の実施
- 2 家きんについて
- 3 県民へのお知らせ
  - 野鳥との接し方について
  - 死亡個体等の情報提供の依頼
  - 通報窓口の周知